

ベトナム子供基金

〒113東京都文京区本駒込2-12-13

アジア文化会館内

TEL : 03-3946-4121 (代表)

FAX : 03-3946-7599

ベトナム青葉奨学会

QUY HOC BONG LA XANH

C/O TRUONG NHAT NGU DONG DU

43D/46 HO VAN HUE PHU NHUAN

HO CHI MINH CITY VIETNAM

TEL : 84-8-8453782 FAX : 84-8-8454228

グエン・ドク・ホウエ先生との懇談会 青葉奨学会近況報告

ホウエ：「みなさん、今日は。時間が経つのが早いです。また今日お会いできて大変うれしいです。この一年間の青葉奨学会の活動についてご報告いたします。

去年の6月にここアジア文化会館で皆さんにご報告した時、奨学生の数は350人くらいでしたが、現在は731名になっております。北は中部地方のフエから南はベトナム南端のミンハイ省まで奨学金が配られています。以前皆様からたくさんご指摘を受けまして、ホーチミン市の事務局も頑張って、活動は軌道に乗りつつあります。現在ベトナム人スタッフが3人と日本人が1人ないしふたり、一緒にやっています。

前回みなさんが大変ご心配くださった、青葉奨学会のいくつかの困難、例えばロンアン省の生徒達が自由に奨学金が貰えなかったことはいまどうなっているか、そういうこともお話ししたいと思います。

ベトナム中央奨学会の設立と青葉奨学会の立場について

「ベトナムの社会では、日本でみなさんが考えるようにいかないこともたくさんあります。その一つが奨学会の活動です。簡単に申しますと、例えば青葉奨学会、また各地方の民間の奨学会はどれも正式には認められていません。しかし、政府はこの活動が大変にいいと判断して、許可はしなくても目をつぶっているのです。そして昨年10月、政府はハノイに中央奨学会を設立し、それから今年の4月、初めてホーチミン市奨学会ができました。ほかの地方はその後、5、6月頃各県ごとに奨学会ができました。しかし民間の奨学会はまだひとつも許可されていません。

青葉奨学会はこれを機会に、さっそく会員になりたいと正式に中央奨学会に申し込みました。中央奨学会の理事の方にはほとんどお会いしまして、青葉奨学会の歴史、精神、それからやり方と、すべてのことを説明しました。中央奨学会は青葉奨学会の

活動を大変高く評価してくれました。特に、やり方については、青葉奨学会のやり方しか成功しないだろう、できれば青葉奨学会と一緒にやろう、と彼らは考えています。

ただ中央奨学会の権限ですべて決定することはできません。社会主義国家ですからすべて内務省の同意がなければ決定できないのです。ですから青葉奨学会が申請すると、早速ホーチミン市の公安局が調査に乗り出して、さらに直接ハノイから調べに来た人もいます。調べに来た方々はすべて青葉奨学会に対して疑問を持つようなことはなく、大変感激して、大いにやりなさいということでした。そして今後できるだけ応援してあげると、少なくとも調査の方は大変好感を持ってくれました。

今回日本に来る前、私はハノイに行きたくて催促したのです。その中央奨学会の方は大変親しく、もう仲間として迎えてくれましたが、返事については、何とも言えない、内務省の同意があって初めて決定できるということでした。同意が出たらすぐ許可を出しますと、そういう約束をもらって帰ったのです。

私としては青葉奨学会を正式に認めてもらえるように努力いたします。認められたら全国的に活動できます。そうなればロンアン省のことは問題なく解決できます。正式に認められない場合でも、フエから南ではほとんど問題ありません。いままで通りに行ないます。ロンアン省の件は、中央奨学会とは関係が良いから、紹介状をもらって現地のロンアン省の人民委員会に説明して、解決できるのじゃないかと思っています。しかし、全部私の考え通りにいくかどうか、何も保証はありませんが、一応そういう方向で解決しようと考えております。多分今年から支給可能になると思います。

私は楽観しています。青葉奨学会はベトナムに必要なものです。その存在はベトナムにとってはプラスになるだけで、マイナスはひとつもありません。ですから必ず許可してくれると信じております。

しかし、ベトナムの役人の心情も理解してあげなければなりません。自分がいいと思って口をだして、あるいは文章にして認めることができない場合もあります。その場合には多分返事は来ないんじゃないかと。そして返事がなくてもいいと私は思っています。返事がなければ、やってもいいのじゃないかと私は解釈します。しかし、向こうは断ることはないでしょう。断ればベトナムの生徒たちには大きな損失があります。中央奨学会にとっても逆方向ではないかと思えます。

北部ベトナムの子供たちにも奨学金を

「北部ベトナムではどうか。まず中央奨学会は大変歓迎するはずですよ。青葉奨学金を北部の子供たちにも大いに支給してくださいと。北部ベトナムで一番大きな街はハノイで、次はハイフォン、3番目がナムディンという街です。ナムディンは工業都市であり学問の街です。優秀な人々がナムディンからたくさん出ています。その書記長から手紙で、大いに青葉奨学会にお願いする、是非ナムディンの学生にも支給して欲しいと、そういう要望がありました。書記長は全権を持っていますから、書記長がOKすれば問題はありません。ですからまず、北部ベトナムではナムディンの子供達に奨学金を支給することを考えています。

それから、ハノイ市はどうするか。ハノイ市には中央奨学会があります。中央奨学会が認めてくれれば、あるいは正式に認めないとしても反対さえしなければ、やれる

のじゃないかと思います。中央奨学会の名義でやっても構わないと私は思います。各学校に通知を出すのは中央奨学会にやってもらい、窓口は中央奨学会に置く。そして青葉奨学会の事務局が選考して決める。これならできると思います。そういう考え方でこれからハノイとナムディンで支給する。

今年は、まずハノイとナムディンを先にやって前例をつくれば、他の地域も「あ、ハノイができる。ナムディンもできる。自分のところでもできるんじゃないか」と自然に青葉奨学会が招かれるようになるのではないかと思います。そういうやり方で今後北部ベトナムの子供達にも支給していきたいと思っています。

北部ベトナムでの活動は全部フィン・ムイさんという人をお願いしようと思っています。フィン・ムイさんはアジア文化会館とも古いつきあいがあり、私の親しい友達でもあります。彼はハノイの私立大学、タンロン大学の学長で、大変な人格者です。日本留学時代からこういう社会活動も熱心にやって来られた方です。ですからフィン・ムイさんと相談した上で、今後北部ベトナムでは青葉奨学会の活動は全部フィン・ムイさんに窓口になってやってもらうつもりです。しかしさしあたりそういう許可がまだ出ないうちは、フィン・ムイさんも身動きができませんので、ホーチミン事務局が責任を取るやり方で今後北部ベトナムで奨学金を支給したいと思っています。



ミンハイ省に小学校を建設する

「昨年みなさんにご報告した際、今後学校の建設も可能と言いました。その後、東京事務局の同意を得て、ミンハイ省に一つの小学校を建設することを決めました。そこに小沢さんと南さん（共に子供基金世話人）と私が一緒に行きました。学校はあっても4メートル四方ほどのところに、柱が立っていて、ヤシの葉っぱで屋根を葺いてありますが、空が見えるぐらいのものです。雨が降ったら逃げるところがありません。壁もないです。机もちゃんとした平らな机ではなく、でこぼこ。一枚の板じゃなくて、

何枚かの板を張り合わせたものです。机の足は曲がった木を切って、そのまま釘で打ち付けた、そういうものばかりです。私たちはあちこち見ましたが、本当にかわいそうでした。そういう4メートル四方の教室で3クラスいっしょに勉強するんです。先生はひとりで3クラス同時に教える。

そういうところを案内されて、やっぱり学校を建てて上げたいと思って、東京の事務局に連絡したらOKということでしたので、12月に着工しました。4月の終わりに完成したという知らせがあったので、私自身が検査に行きました。しかしいくつか問題があったので、修理して完璧な状態になったら受け取ることになりました。6月始め、私が日本に行く準備をしているところに、完璧な状態になったから是非受け取りに来て欲しいと連絡が入りました。それから開校式を一応7月の10日前後と約束しました。ベトナムに帰ったら、私は早速ミンハイ省に行ってその学校を受け取り、現地の住民に引き渡そうと考えております。

最初の予算は1万米ドルでした。しかし、4月に検査に行ったとき、屋根を支えるところに木の部分がありました。それは私認められません。森のなかですから虫がたくさんいます。木ではすぐ食われてしまいますので、全部鉄にしたい。どうせお金出したことですから、長く使ってもらいたい。1年か2年か3年でまた修理しなければならないのはよくないので、木材の部分全部鉄にしました。現在、1万2000米ドルは青葉奨学会が、それ以外は現地の予算と住民のカンパでやると、そういう約束になっています。1教室の大きさは8メートルx6メートル、48平米です。3つの教室と3メートルx8メートルの職員室。両側に廊下があります。れんが作りで、柱は鉄筋コンクリート。また別にトイレを学校から約20メートル離れた所に作りました。それから、生徒達は生活に川の水を使っていたので、井戸を掘りまして、今ではきれいな飲めるほどの水が汲めます。完璧な一つの学校です。

ミンハイ省の学校建設について、当時ホーチミン事務局にきておられた小沢さんからみなさんにご報告いたします。」

頭の上から蟻が降ってくるころ

小沢：「今年の12月頃になりますけれど、子供基金でミンハイ省に学校を建てようということになりました。建設業者と契約を結ぶという日に、その土地の視察に私も東京のみなさんを代表して同行するよという事で、先生にご案内していただいて、学校建設予定地に1泊2日で行ってまいりました。まずホーチミンを出発してからミンハイに着くまで、さきほど先生もおっしゃいましたが、ベトナムの最南端の街ですので、まず車で6時間、450キロの距離です。当日朝はやく出発しましたが、その日のうちには目的地に着くことができませんでした。最寄りの村で一泊して、翌日朝5時ごろ起きて、モーターボートに乗って入り組んだ水路のなかを2、3時間走ったところに建設地はありました。

水しぶきも蚊もすごくて大変でした。やっとの思いでその建設予定地に行きましたら、そこはぬかるみで普通の靴ではとても歩けないような土地でした。大きな木がありまして、頭の上から蟻が降ってくるようなところでした。土地はそこにお住まいのある女性が提供して下さるということで、その方にもご挨拶することができましたけれ

ども、そこを埋め立てて土台を作って、そこに資材を全部運んで建設するのだそうで、まあこれはとんでもなく時間がかかることだろうなと思いました。そしてこんなたいへんなところにこうして私たちの思いが通じるんだなあということで、とてもうれしくなりました。

ミンハイ省の副知事の方にもお会いしまして、私たちの意向をお話しし、先方の方たちの反響なども伺ってまいりました。今回子供基金でお金を出すことによって、新しい校舎を建てるというこのプランには、みなさん非常に大きな関心を示してらして、地元のニュースでも大きく取り上げられたそうです。で子供さんたちはもとより、親御さんも地元の方も町のひとつの核になるということで、非常に建設を待ち望んでらっしゃいまして、手厚い歓迎を受けました。

ホウエ先生からご説明があったようなぼろぼろの校舎で勉強している小中学生にも会って来ました。黒板に先生が字を書いても黒板がでこぼこだし、後ろの子はよく見えないようです。机も小さくて、ペンもない。裸足で勉強してる子もいました。けれども皆さん、非常に歓迎して下さい、歌を歌って私たちをおくりだしてくれました。

日本で学校を建設すると言ったらすぐにできるでしょうけれども、あそこでは非常に困難な作業だったに違いありません。こうして7月に完成の日を迎えることができるようになり、私も本当にうれしく思います。ホーチミンにいる子供基金のスタッフの丸山さんがきつと完成式にはビデオを撮って、皆さんに具体的に見ていただけるような報告会が開けると思います。」

ホウエ：「小沢さんの話への追加ですが、その学校の机と椅子、今度は立派ではないですけど、平らな机、ちゃんとまっすぐな足の机を教育局が提供してくれることになりました。材質は悪いですけど、しかし、田舎では贅沢なものです。だから生徒たちも大変よろこんでいます。ベトナムの学年は9月からですから、ちょうど新学期に間に合います。」

本当に子供たちに手紙は届くのか

質問：「先ほど伺ったような辺鄙な地域の子供たちと本当に文通が可能なのでしょうか。」

ホウエ：「子どもたちとの文通について申し上げます。現在の奨学生は731名います。一年間に2通として合計1400通あまり、翻訳しなければなりません。もう大変な作業です。だから多少遅れたり、まだ出していないことがあっても、どうかみなさん許してください。私たちは可能な限りやりますけれども、手が届かないこともあります。送って頂いた手紙をベトナム語に翻訳するのは簡単です。ただベトナム語から日本語に直すのはなかなかうまくやれませんが、時間がかかるのです。それでも皆さんからの手紙はちゃんと学生の手が届きます。」

先ほどのミンハイのような辺鄙なところにどういうふうに手紙を送るのか、また奨学金をどういうふうに配るのか、ということについてお話しします。ミンハイ省に21名の青葉奨学会の奨学生がいます。私たちは共産党の新聞社にやってもらいました。青葉奨学会のこともその地方の新聞に大きく載せて頂きました。そして生徒からの申

し込みも新聞社が窓口になって、受け取りました。審査も全部記者を派遣して一軒一軒廻って調査しました。それでも私はまだ安心できませんでした。

それでこの前行ったときに確認しました。そして大変感動しました。田舎の方ですから、選考する方は責任を重く感じてくれます。それから受ける方はありがたいと思う気持ちが強くあります。時間がありませんでしたので、私が会ったのは3人だけです。

最初の子供の家に行くと、お母さんは言葉が出ないんです。お父さんは話せるんですが、両足がありません。だから車に乗って、自動車じゃないですよ、宝くじを売りに行っています。子供が3人あります。

次の家に行こうとして、あちこち探しました。決まった住むところがないのです。近所のあちこちの方をお願いして泊めてもらっているのです。栄養が不足していて、小学校の5年生ですが、日本人だったら1年生ぐらいの背の高さしかありません。小さい。私も会ってびっくりしました。私が呼んだらすぐ泣きだしたんです。もうわーわー泣いて。近所の人が集まって聞きました。どうして泣くのかと。誉められたのにどうして泣くのかと。人々の話しを聞くと、その子は大変しっかりしてます。学校でも何回も表彰されました。



3番目の生徒の所に行ったら、お父さんは亡くなっている。お母さんは小学校の先生ですが、交通事故で片手を無くしています。そういう状況で、ふたりの娘を育てたんです。そのひとりが青葉奨学会の奨学金を貰っています。本人は国語がたいへん得意です。学校のなかでトップです。そのように、行ってみたら3人ともたいへんよい生徒を選んでくれていました。

新聞記者の話では、地方ですから、信用されたいから、みんな慎重にやってます、ということでした。ちょうどその時、是非自分の子供を受給させたいという教育局の局長さんがみえました。すると一人の新聞記者が私を外に呼んで、ホリエさん、私た

ちも困ってる。教育局から圧力も受けた。私たちが出来るだけ避けるから、もし彼がそういう話しを持ち出したら上手く避けてください、と言ったんです。それほど新聞社が責任を持ってやってくれました。この奨学金は大変貴重なものですから、信用されて今後ミンハイ省で奨学生の数を増やしてもらうために慎重にやっております、と。ですから、間違いなく生徒たちに奨学金と手紙は届きます。どうぞご安心下さい。」

手紙の翻訳をテープに吹き込んで

事務局：「ひとこと付け加えます。この4月、5月、6月くらいにみなさんのお手元に届いた子供からの手紙の翻訳、あるいはテープが届いた方もいると思いますが、実はこれらの中には1年近く前に書かれたものが大分入っています。6カ月くらいベトナムで保存されてまして、なかなか訳しきれないままこちらに送られてきました。こちらでは留学生のみなさんに翻訳をお願いしたんですけれども、ちょうど年末年始の休みでアルバイトの時期、そのあとは試験の準備が続き、試験が終わるともう今度はテトで、ベトナムのお正月。帰国する人も多く、また遅れてしまいました。

こちらにベトナム語の手紙が送られてきた場合には、こちらにいる留学生のみなさんに頼むのですが、文章にするというのはなかなか大変なので、場合によってはテープレコーダーに吹き込んでもらっています。私たちが英語でなにかそれらしい文章を書こうとするとなかなか大変なのと同じで、文章だと、「てにをは」の一つ一つが気になりますし、時間もかかります。ただその時に雑音が入ったりして、お聞き苦しい点もあるかと思うんですが、この点についてはこちらで直すようにこれからできるだけ気をつけます。そういうテープが行った場合にはどうかお許し頂きたいと思えます。手紙の方がいいとおっしゃる方もきっといらっしゃるでしょうが、なるべく早く子供たちの気持ちをみなさんに伝えるために、そういう形でやらせていただくことがあります。いろいろ問題が起こればまた考えますけれども、しばらく手紙とテープと2本立てでやって行きたいと思えますので、ご了承いただきたいと思えます。」

会計年度を1月～12月に統一

ホウエ：「みなさんに事務のことで、ご報告があります。今までは会計年度が二通りありました。ひとつは9月から始まり8月で締め切るものです。ベトナムの学校は9月から始まりますから。もう一つは毎年1月から12月までの会計年度です。いままではこの二通りを同時平行的にやってきました。ですから会計と決算はたいへんでした。そこでホーチミン市の事務局と相談した結果、全部統一して、今後会計年度は1月から12月までに全部統一することにしました。奨学金の支給も1月から12月までです。

9月から新学期が始まりますが、生徒たちはまだ落ち着いていないので、申請の書類が作れません。学校も新年度が始まったばかりで忙しくて、なかなかやってくれません。その前、7月、8月はどうかというと、学校は休みで、必要な書類ができません。

1月からやれば、9月から1月までは4カ月ありますから、事務の仕事は十分できます。学校の方もゆっくり考えて推薦できるし、学生も落ち着いたところで支給したほうがいいです。ただ、8月で学年が終わりますが、支給は12月までです。4カ月分は遅れて貰うことになるのです。統一したら会計もたいへん簡単になります。現在は会計年度は一つだけで、1月から12月。だから現在支給されている学生は12月まで奨学金が貰えます。しかし、9月から更新の手続きをしなければなりません。4カ月間の期限で審査して、調整して、来年の1月から支給します。このことをみなさんご了承ください。」

子供たちにテトの贈り物

ホウエ:「大事なことをみなさんに報告し忘れました。今年の1月、初めてホーチミン市の民衆に青葉奨学会の紹介ができました。いままで青葉奨学会はこっそりと、事務局と学校または学生との間で活動しているだけで、一般の人には全然公開しませんでした。しかし、ちょうどテト（お正月）が近づいたし、それから東京から応援が、丸山さん、南さん、小沢さん、市川さんと4人も来ていたので、大いにやろうと。ドンズー日本語学校は毎年テトのカンパ活動をやります。集まった先生方、学生たちからカンパを募って、そのお金でお正月の料理を作って貧しい子供たちに配ったり。また一昨年は食べものじゃなくて、生徒たちに新しいシャツとズボンを贈りました。

今年の1月、スタッフも多いので、この際もっと拡大して、ドンズー日本語学校の内輪だけじゃなくて、外の社会にも呼びかけよう、ということになりました。日系企業に呼びかけて、それから各社を回ってカンパをお願いしたのです。結果は大変すばらしかったのです。そのことについて、そのキャンペーンの責任者の小沢さんからちょっと報告して下さい。」

小沢:「私たちはそれを『テトのイベント』と呼んでましたけれども、ここに報告のアルバムがございます。順に回しますので、ご覧ください。まず、先生の方から名前を上げて下さった日本企業、もしくは先生が親しくしてらっしゃる日本の方とにかくダイレクト・メールを出しました。みなさん本当に反応が早くて、多分お手にしていただいてすぐにお申し込みのファクスがどんどん青葉の事務局に入ってきました。日本でしたら普通銀行振込か郵便振替で送金し、直接顔を合わせてお金のやりとりをするという機会はほとんどございませんけれども、今回のこの『テトのイベント』の場合は一軒一軒にアポイントメントを取って私たちが領収証を持って集金に伺いました。日本人スタッフは地理に詳しくありませんし、バイクの足があるわけでもありませんので、すべてドンズーの日本語が話せる学生さんとペアになってそれぞれの日本企業を回ってお金をいただいてきました。100社近い方にご協力いただいたんですが、集金だけで3、4日かかりました。結局私たちの予想以上に沢山の方からご寄付を頂きましたので、沢山の子供たちにシャツとズボンを贈ることができました。ホウエ先生が常々おっしゃってることですけれども、皆様の善意が確実に子供たちに渡るかどうかというところが一番大事です。そういう寄付金はごく自然にきちんともらうべき方の所に行くべきですが、残念ながらベトナムでは、なかなかその好意がきち

んと渡らないケースも多いということなので、子供たちに渡す時も、どなたかにポー
ンとお願いして、1709人の子供たちに渡してくださいというのではなく、また私
たちが学生とペアになって、ホーチミン市のみならずその周辺の村に荷物をバイクで
運んでひとりひとりに手渡してきました。

その様子はそのアルバムに納められております。ひとりひとりの名前までは私ども
把握することはできませんでしたが、確実にみなさんの善意を子供たちに伝え、子供
たちの反応を確認することができた、喜びを共有することができたということが非常
にうれしいことでした。



また、奨学生だけではなくて、まだその奨学金さえも受けられない子供たちのため
に、この活動をホーチミン事務局のスタッフを中心に、また日本の東京にいる私たち
もサポートして続けていくことができれば非常に有意義なものになると思います。こ
の活動は子供たちに何かをして上げられた、衣服を送ることができてよかったという
よりも、私自身が子供たちから得るものがとても大きいものがありました。また、ド
ンズーの学生さんたちとひとつのことを一緒にやることで、貢献するというよりも私
自身が貢献されてこの活動を終えることができたと思っています。こういう機会をい
ただけたことに本当にホウエ先生に感謝しております。」

ホウエ：「青葉奨学会の活動がベトナムで公になったのは今度が初めてです。日系企
業も驚いたようで、彼らの青葉奨学会に対する認識も変わりました。寄付金だけじゃ
なくて、早速里親になる方もたくさん出ております。ある方からは13人の子供を引
き受けるという連絡も来ました。駐在の期限が切れて日本に帰りますので、奨学金は
青葉事務局に預けますので、子供達に渡してくださいと言ってくださった方もいま
す。日系企業はみんな歓迎してくれました。こういう活動があるのなら大いにやって
ほしい、という反応でした。総領事館もびっくりしました。報告書を届けに行った時、

総領事がちょっと恥ずかしそうに言いました。今回は簡単な運動と思ったから、総領事館のスタッフはあまり積極的に参加しなかったんですね。しかし約束します。来年はちゃんとやりますから、ということでした。

こういうことを学校内だけでやることは簡単です。しかし学校外への呼びかけは許可がなければなりません。特に外国人に呼びかけるのは、本当にドンゾーと青葉奨学会が勇気を持ってやったのです。実際には、公安部の方も理解して後で応援してくれたようです。それで、無事にできました。そうでなければえらいことになった筈です。やっぱりみんなちゃんと見守ってます。ここに参加されたみなさんも、機会があったら今年の12月か来年の1月、是非ベトナムにいらしてください。私たちといっしょにまた運動をやきましょう。

生徒たちに贈ったのはひとりにズボン1着とワイシャツ1枚。女の子には刺繍が入ったきれいなものを上げました。計画の時は1着3万5000ドン、実際に注文した時は1着2万7000ドンで済みました。最初600着と計画したのですが、最終的には1255着分集まりました。プラス454着の赤ちゃんの分も入ってますから、全部あわせて1709着分が集まりました。社会活動を民間でやって、大きな効果を上げたといってもいいでしょう。」

子供基金の拡大にご協力を

質問：「私は生活環境をよくしようという会合などに出ているんですが、そこにカンボジア支援などのパンフレットが来ていたりします。青葉奨学会は日本の一般の方々にもどのように呼びかけているのでしょうか？」

事務局：「これはベトナムのホアエ先生の仕事ではなくて、私どもベトナム子供基金の方の仕事だと思いますので、代わってお答えしたいと思います。」

この子供基金が発足しましたのは、2年前の6月です。今400人ぐらいの会員がいます。私どもとしては大いにみなさんに呼びかけたいと思っていたのですが、実はその体制整備がなかなかベトナム側も日本側もできませんでした。例えばこの中にも、最初の子供さんとの結びつきのおきにずいぶん長く待たされた里親の方もいらっしゃると思います。ほんとうに申し訳ありませんでした。長い方は1年近くもお待ちいただいたりとかいうこともございまして、私どももどこまで宣伝していいのかということが、なかなか最初のうちは掴めませんでした。現在では子供の方が待っていて、里親にお申し込み戴ければ、即子供との組み合わせができるような状態になっています。

ですから、今日ホアエ先生が来られたのを機会に、私どもの方も広報活動にもっと力を入れたいと思っております。皆様方には会報を通じて、それぞれの方面でどういった方法があるか、ご案内をお願いしたいと思います。ぜひご協力をお願い致します。」

今度のスタディーツアーは

質問：「来月何人かスタディーツアーでベトナムに行かれますね。その時子供たちとは会えるんですか。」

ホウエ：「去年、数人の里親の方がベトナムを訪れた時、全員ではなかったのですが、子供たちに会えました。今年もまた、7人の里親の方と事務局から岡村さんが一緒に行きます。現地の予定としてはまず1日、遠い所に行かないで、ホーチミン市の近辺でピクニックでもして過ごしてもらいたいと思っています。地方に住んでいる子供をホーチミン市まで連れてくるのは大変です。連絡できる場所、子供がホーチミン市に集まれるところだったら確実に会えます。参加される方々と里子の名前が分かれば確実にお返事できます。」

事務局：「ちょっとご説明いたします。今回、ツアーを組みましたが、そのご案内のときに里子に会えるとは限らないということと、それから今回はホーチミン近郊の里子だけに会えるように、こちらとしては手配しますということを最初にお断りしました。というのは現在ホーチミン近郊だけではなくて、フエですとかかなり遠いところに里子をお持ちの方もいらっしゃるのです、その方々が一緒に行った場合に、全員一緒に行動するという事は現実的に無理ですので、そうお断りしておきました。今回参加いただいた方たちのお名前は、もうベトナム側に報告してありますので、里子と会えるようにいま準備中です。」

お金がかかるベトナムの義務教育

質問：「ベトナムの教育事情について私たちは全く分からないんですが。」

ホウエ：「現在ベトナムの教育環境には問題が沢山あります。そのひとつは小学校でも、義務教育でもやっぱりお金がかかることです。親の負担も大きいし、ちゃんと勉強したくても学校に行けない子がでます。先生の給料も足りません。普通の学校はもちろん建前は全部無料です。政府の発表、命令、指示も全部無料ですが、実際にはお金がなければ行けないところがほとんどです。多いのではなく、ほとんどです。例えば学校の机、椅子を修理するのに少しお金出さなければいけないとか、名目はいろいろあります。授業料としてはとらないんですが、協力費として、学校と父兄が力を合わせて子供がよく勉強できるような環境を作る、そういう名目でやっぱり親がお金を出さなければなりません。それが一つ。もう一つは本、ノート他、すべての費用は両親が負担しなければならないことです。もちろん、昔、解放直後、政府は全部支給しました。しかしだんだん予算が苦しくなって、そういう支給がなくなってます。実際は生徒や親たちが自分のお金で買わなければならない状態になっているわけです。」

ドンズー日本語学校の現状

質問：「ドンズー日本語学校について説明していただきたいのですが。」

ホウエ:「現在ドンズー日本語学校には1300人ぐらいの学生がいます。日本人の先生が12名、ベトナム人の先生が26名。ここにお出での岡村先生は実は1年半ドンズーで活躍してくださった方です。去年は本校と分校が2つしかありませんでしたが、この1年間でもう1つ分校ができました。ホーチミン市内に本校と分校が3つ、ビエンホア工業団地の近くにもうひとつの分校ができました。現在5カ所で同時にやっております。日本人の先生はいくらいても足りないと言ってもいいくらいですが、学校の経費の問題もあります。ドンズーだけ外国の先生が多くなっていますが、他の学校はひとり、ふたりぐらいしかいません。ドンズーは10名以上いますから、政府はちょっとおかしいんじゃないか、どうしてそんなに必要かと思っているようです。しかし、学生の数、コマ数から考えますと、やっぱりまだ足りません。そういう人数があっても足りません。これが現状です。

ドンズーができてから6年が過ぎましたので、経験は十分とは言えませんが、ある程度あるつもりです。そういう経験を活かして、今教科書を編集することを考えています。今回来日の目的の一つとして、日本の出版社と話し合いができました。今後日本の出版社の応援のもとで、それからノウハウを提供していただき、ドンズーの先生と一緒にベトナム人向けの日本語教科書を編集しようと思っています。

それから、ドンズーの今後のことも考えて、4月から教師の養成講座を開始します。現在ホーチミン市だけじゃなくて、ハノイ市、ハイフォン市、その他の地方も日本語の教師がいません。日本人の先生はいても、ベトナム人の先生がいません。ですから至急養成しなければならぬ状況になっておりますので、今回ドンズーが思い切って教師養成講座を作ります。ただ私たちの力は十分ではありませんので、専門家の皆さんに来ていただいて教えてもらわなければなりません。皆さんのなかで、日本語教育のご経験を持っている方がいらしたらぜひご協力いただきたいです。」

青葉奨学会にビデオ・カメラを送る

事務局:「もう一つご報告があります。先日の運営委員会で、青葉奨学会にビデオ・カメラを一つ送ることが決まりました。これは、一応事務局をここアジア文化会館に置いてあるんですけども、特別な部屋もないし、来ていただいてもお見せるものも何もないので、なにか奨学会活動についての生き生きした情報を、どうにかしてみなさんに公開できるようにしなければいけなんじゃないかということで、できればデジタル・ビデオカメラを送りたかったんですが、そのフィルムが日本の国内でもなかなか調達しにくいそうなんです。で、ベトナムだとそのフィルムをある程度揃えて入手するということが難しそうですので、デジタルではなくて8ミリを送った方がいいんじゃないかということに今なっております。それができますとみなさんに通信等で新しいビデオが入りましたというようなことをお知らせします。遠方の方はご請求いただければ、貸し出しできるような形にしたいと思います。またこちらに来ていただければいつでも見られるようにしたいと思います。」

こちらの事務局のメンバーも、ベトナムに行ってしまった人もあり、人数も少なくなりぎみです。毎月の第3土曜日の2時からここで運営委員会と称していろいろやっ

ておりますので、ちょっと行って見てなにかやってみようというお気持ちとお時間のおありになる方は是非お出下さい。

それでは、ホリエ先生は、ほとんど朝から食事もしないで頑張って午前中は学生さんとの協議、午後は即運営委員との話して、2時からまたここでの話し合いで、あまりお休みも取ってらっしゃらないので、もしみなさんの方から特にご質問等なければ、ちょっと早めですがこのあたりで終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございます。」

台風で大きな被害

Con bão thế kỷ ở Nam bộ: hơn 100 người chết, hàng ngàn người mất tích

● Cà Mau: 120.000 căn nhà bị sập và hư hại ● Kiên Giang: 1.031 tàu bị chìm ● Bạc Liêu: 50.000 hecta lúa bị ngập cỏ nguy cơ mất trắng

(TT) - Từ 2-11-1997, cơn bão số 5 (tên quốc tế là Linda) đi qua phía nam Côn Đảo và đến 19 giờ đã đi vào địa phận Hậu Lộc - Cà Mau, ảnh hưởng trực tiếp đến các tỉnh miền Tây Nam bộ. Đây là một cơn bão mạnh cấp 9-10, giật cấp 10 và đi chuyên với tốc độ 20 km/giờ) hiếm thấy trong vòng 100 năm nay ở Nam bộ. Ngay sau cơn bão, PV và CTV Tuổi Trẻ đã tìm ra ở các địa phương bị tác hại lớn của bão và có những

ghi nhận sau đây. Theo số liệu thống kê ban đầu, đến 17 giờ ngày 3-11, tại Bà Rịa - Vũng Tàu, cơn bão số 5 đã làm chết 20 người, bị thương 13 người, mất tích gần 100 người, 221 tàu thuyền bị chìm, 176 căn nhà bị sập, hư hỏng chiếc ghe thuyền đang bị mất bên bờ. Kiên Giang 130, 150 tàu thuyền bị chìm, hơn người chết, hư hỏng; đồng lúa lên lạc, sên bị hư hỏng nặng, trên 7.000 người mất tích, tàn tạ lìa nhà. *XEM TIẾP TRANG 15



11月4日付け トッケ新聞

南部で今世紀最大の台風：100人以上死亡、数千人行方不明

カマウ：120,000家屋損壊 キエンザン：漁船1,031隻沈没

バックリュウ：50,000ヘクタール冠水

11月2日昼、台風5号（国際名リンダ）がコンダオ島を通過し、午後7時バックリュウーカマウに達し、西南部地域を直撃した。この台風は南部では100年来最強。

11月2日、ベトナム南部を猛烈な台風が襲い大きな被害が出ました。詳しいことは現在調査中ですので、次号でお知らせします。

事務局からのお知らせ

1. 通信の発行が遅くなり申し訳ございませんでした。
2. 会費未納の方はご入金お願いします。
3. 新会員を募集しております。お知り合いの方をご紹介ください。
4. 奨学生の新履歴書が到着しました。翻訳したのから順次お送りいたします。
5. 毎月第3土曜日午後2時から定例の運営委員会を行ってます。
ご都合の良い方はご参加ください。場所はアジア文化会館です。
尚、次回12月20日(土曜日)は、ミンハイの小学校落成式、およびスタディーツアーのビデオを上映します。是非、お越してください。また、お越しになれない方のためにはビデオの貸し出しも致します。ご希望の方は事務局までご連絡ください。
6. 翻訳のお手伝いをしてくださる方を探しています。ご協力いただける方は事務局までご連絡ください。

ベトナム子供基金会員募集

里親基金 年額1口 20,000円	特定の「里子」に奨学金を支給する「里親」になっていただきます。ベトナム青葉奨学会から子供と家族の履歴票が届き、子供と手紙のやりとりができます。	会費納入は次のところをお願いします。 口座名義はいずれも「ベトナム子供基金」 郵便振替 00140-1-70399 銀行振込 富士銀行駒込支店 普通預金 1495745
一般基金 年額1口 12,000円	子供達全体の「里親」と言う関係を想定しています。子供基金通信によって、会の運営報告、子供の様子等をお伝えします。	
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数等、いっさい自由です。	

あとがき

- * 次号ではミンハイに完成しました小学校校舎についてご紹介します。
- * 会員の皆様のご意見、ご感想を通信でご紹介します。どうぞお寄せください。
- * 転居等で連絡先が変わった場合は事務局宛ご連絡ください。